

庵原地区における道の駅整備 に向けた社会実験の結果報告



令和5年5月27日

庵原地区道の駅社会実験実行委員会



実験の背景

| 庵原地区の動き | その他の動き |
|--|--|
| <p>平成22年 身近なまちづくりフォーラム(WS)開催</p> <p>23年 市長へ庵原まちづくりに関する要望書提出</p> <p>25年 JAしみず・連合自治会の連名で道の駅開設に関する要望書を市長・市議会へ提出</p> <p>26年 市長へ3次総エリア別ビジョンにおける庵原地域の構想に関する提言書を提出</p> <p>令和元年 庵原地区地域活性化拠点準備会発足</p> <p>2年 「(仮称)清水いはら道の駅」WS開催</p> <p>3年 庵原地区道の駅社会実験実行委員会発足</p> <p>4年 第1回社会実験(清水いはらフェス) →コロナ感染拡大により中止(2月) →リベンジ第1回として5月に開催</p> | <p>昭和62年 四全総において第二東名自動車道、中部横断自動車道が高規格幹線道路の構想として閣議決定</p> <p>平成8年 中部横断自動車道・新清水JCTー増保IC間整備計画決定</p> <p>24年 新東名高速道路開通(清水いはらIC供用開始)</p> <p>31年 中部横断自動車道・新清水JCT～富沢IC開通</p> <p>令和元年 静岡市道の駅基本構想策定</p> <p>3年 中部横断自動車道・静岡～山梨全面開通</p> <p>4年 ROUTE日本海ー太平洋パートナーシップ協定の締結(静岡市を含む5市)</p> <p>5年 県道清水富士宮線バイパス全線開通</p> |



WSで描かれた「(仮称)清水いはら道の駅」構想図





実験の趣旨及び目的

中部横断自動車道が山梨県まで開通したことを契機に、「(仮称)清水いはら道の駅」の整備を仮想したイベント形式による社会実験として、次の三つの事項を目的に延2回を開催しました。
なお、社会実験では、「(仮称)清水いはら道の駅」の目指す姿として描かれた将来図に示された各機能に関するブースを設け、販売や情報発信、並びにアンケート調査等を実施しました。

目的 1

主なターゲット層の意向把握等データの収集
※主なターゲット層：①地域の皆さん、②山梨県や長野県方面の皆さん

目的 2

庵原地区及び清水区、静岡市の魅力の発信

目的 3

新たな「道の駅」実現に向けた地域や行政等関係機関等の機運醸成



実験の概要

第1回

◇名称

リベンジ第1回清水いはらフェス
～たった1日の“道の駅”・乞うご期待！～

◇実施期日

令和4年5月21日（土）10時～16時

◇実施場所

静岡市清水庵原球場
プロムナード及び
JAしみず営農振興
センターきらり

◇出店者数

22店舗

◇駐車場（臨時含む）

約240台

◇天候

雨のち曇り



第2回

◇名称

第2回清水いはらフェス
～たった1日の“道の駅”・再び出現！～

◇実施期日

令和5年1月29日（日）10時～15時

◇実施場所

静岡市清水庵原球場
プロムナード及び
駐車場

◇出店者数

42店舗

◇駐車場（臨時含む）

約500台

◇天候

晴れ

山梨県・
長野県から
も出店！





実験結果の要点

| 項目 | 第1回 | 第2回 |
|-------------------|---|--|
| 実験参加者数(入場者数) | 約2,000人 | 約3,500人 |
| 物販機能(総売り上げ) | 約1,250,000円(約60,000円/店) | 約3,751,000円(約91,000円/店) |
| 体験・交流・ 情報発信等機能 | 雨天のため十分な参加が見られず | ◇眺望満喫ウォーキングに約100人 ◇舞台が表現、交流、盛り上げに寄与 ◇配布物が不足するほどの情報発信 |
| 駐車場機能 | 正規分170台、臨時分50台が早々に満車となり交通渋滞などの苦情 | 正規分300台、臨時分200台に拡大したが開会后前半で満車状態 |
| 来場者アンケート | ◇参加企画：物販39%、飲食29%等 ◇当地の道の駅：あった方が良い81% | ◇参加企画：物販45%、飲食33%等 ◇当地の道の駅：あった方が良い83% |
| 出店者アンケート | ◇当地の道の駅：あった方が良い82% ◇道の駅への参加：参加45%、否55% | ◇当地の道の駅：あった方が良い81% ◇道の駅への参加：参加74%、否2% |
| 広報 | 紙媒体、HP、SNS(Facebook、YouTube) | 紙媒体、HP、SNS(Facebook、YouTube) |
| 総事業費 | 430,087円 | 728,984円 |



実験結果のまとめ(考察)

イベントとして

①初回の経験を活かし、総論として前進があり、実験イベントとしての独自の実施パターンを確立

構成プログラムの充実、出店者数の拡大、駐車場等来場者対応の拡充等の対応を踏まえ、初回を大幅に上回る来場者数を確保できたこと、午後の時間帯にかけても継続的な来場者が見られたこと、一方、大きなトラブルもなく終了でき、地域主導の社会実験イベントとしての地域ならではの独自手法が確立されたと評価できる。ただし、今後、同会場で展開する場合、駐車場の確保が最大の制約要因となる。

②庵原地区における「清水いはらフェス」の位置付けを考える

社会実験イベントとして誕生させた「清水いはらフェス」は、①地域内の人のネットワーク形成、②年少者から年配者の各層世代間交流、③国内外他地域との交流促進などの効果が期待されるものであり、庵原地区の従来の地域振興の取組にはなかった性格のイベントでもあることから、庵原地区連合自治会やまちづくり推進委員会とも今後のあり方について協議・共有する価値があると考えられる。



社会実験として

実験結果のまとめ(考察)

①交流域拡大については課題があるものの、発信力・集客力のある舞台・企画であることを実証

《目的1》
主なターゲット
の意向把握

山梨・長野県方面からの来場者は、2回の社会実験を通じ、僅かしかなく、目的を果たせたとはいえない。

南北軸での交流促進を意図し、山梨県や長野県の皆様がわざわざでも足を運んでみたいと思わせる仕掛けづくりの試行・チャレンジがまだまだ求められる。

《目的2》
地域の魅力発信

天候に恵まれた第2回では、主力農産物である柑橘類や立地特性である高山からの眺望をアピールできたほか、「食とスポーツの里・いはら」を前面に打ち出した。

庵原ならではの良さや庵原の方向性を地域内外に発信できたと考える。

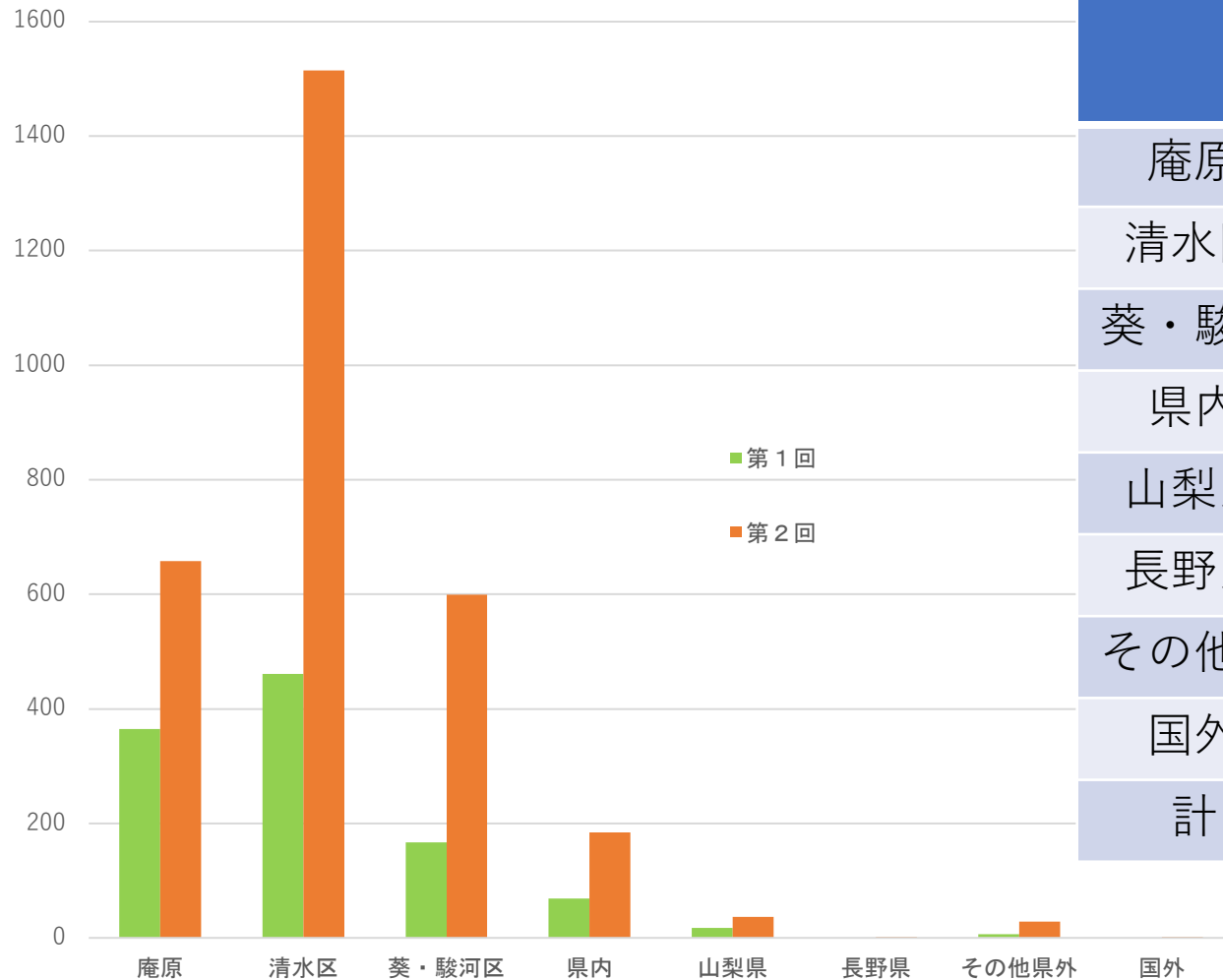
《目的3》
地元や関係機関
等の機運醸成

◇多くの地域住民、行政関係者等の来場
◇庵原球場をホームとしたプロ野球球団関係者の視察
◇マスコミによる事前告知、当日の取材・報道

延2回の社会実験により、当該地域や道の駅を目指す取組への関心を高める場となったと思われる。



エリア別来場者数の比較



| | 第1回 (人) | 第1回 (%) | 第2回 (人) | 第2回 (%) |
|------|------------|------------|------------|------------|
| 庵原 | 365 | 34 | 658 | 22 |
| 清水区 | 461 | 42 | 1,515 | 50 |
| 葵・駿河 | 167 | 15 | 599 | 20 |
| 県内 | 69 | 6 | 184 | 6 |
| 山梨県 | 18 | 2 | 37 | 1 |
| 長野県 | 0 | 0 | 2 | 0 |
| その他県 | 7 | 1 | 29 | 1 |
| 国外 | 0 | 0 | 2 | 0 |
| 計 | 1,087 | 100 | 3,026 | 100 |

※その他県外の内訳

第1回：東京都

第2回：東京都、愛知県、奈良県、京都府



山梨県・長野県方面に向けた広報活動一覧

| | 広報手段 | 配布先等 |
|-----|----------------------------------|--|
| 山梨県 | チラシ・ポスター ラジオ 山梨県政記者クラブ | 地方自治体（県庁、甲府市、南アルプス市、 中央市 等 9 市町） 観光協会（甲府市、南アルプス市、山梨市、 韮崎市 等 5 団体） 道の駅（しらね、富士川、なんぶ、とみざわ） イベント（ イトーヨーカドー昭和甲府店 ） その他（山梨信用金庫、甲府信用金庫） YBSラジオ 15社 |
| 長野県 | チラシ・ポスター 長野県記者クラブ | 地方自治体（ 長野市 、佐久市、上田市、 須坂市 、 立科町 等 7 市町） 道の駅（「 信州道の駅交流会 」を通じ県内 52 駅に配布） その他（JA大北、諏訪信用金庫、 長野市議会 、 長野県果樹試験場 ） 16社 |

《その他》

実行委員会公式ホームページ、Facebook（いはら道の駅計画）、YouTube（清水いはらフェス）

スペシャルな美味しいがあればすぐ来る（山梨県・60代～）



実験結果のまとめ(考察)

社会実験として

②求めていく独自色あふれた「道の駅」の方向性がより明確化・具体化

静岡市の北の玄関口（ゲートウェイ）としての6本の柱

①南北軸の「食」と「農」の発信

②「観光・交流」プログラム

③「眺望の魅力」発信事業

④「スポーツ・健康づくり」プログラム

⑤「広域防災」機能

⑥充実した「広報・サイト運営」

《参考》

静岡市道の駅基本構想・コンセプト
しずおかの“イキ”が集まる道の駅

- 行き交う（広域道路網の活用）
- 行先（皆が集まる新たな拠点）
- 広域（周辺エリアへの効果波及）
- 地域（コミュニティー）
- 活き（新鮮な海の幸、山の幸）
- 粹（独自の文化や伝統）
- 生きがい（健康長寿世界一）
- 生きる（災害から人・自然を守る）



来場者アンケートに見られた想定外のうれしい声

舞台が設置されており、表現の場があったことがとてもよかったです。

今後、小中学校で「いはら学」の学習が進み、児童生徒が庵原の良さを発信する場が「道の駅」内にできるとよいと思いました。

(清水区・40～50代)





総括＝今後の進め方のポイント

社会実験推進体制から道の駅整備による地域振興推進体制への転換へ

◇社会実験の実施体制から、道の駅整備による地域振興を議論、推進する組織へ再構築

◇再構築にあたって次の3点を考慮

①公募を含め**本気**でやりたい人で構成、②熱意と牽引力があるリーダーの存在、③事務局体制の拡充

◇再構築後にまず取り組むのは、次の3点

①事業の**理念**を再整理し共有化、②**整備候補地**の絞り込み、③道の駅構想としての**骨組みの大枠**を整理

◇延2回の社会実験の結果報告に「(仮称)清水いはら道の駅構想」という物語の骨子を添えて、行政に対し提言するとともに、**地域と行政が連携した協議会（または研究会）組織の創設を要望**

◇行政と連携した組織では、次の4点を中心に研究・議論を深化

①物語の**骨子の肉付け**、②清水いはらIC、県道清水富士宮バイパスの**利用量拡大策**の策定、③山梨県・長野県等との**人・物・情報の交流拡大策**の策定、④前項を踏まえた**実現可能性の検証**



終わりに



「ROUTE日本海ー太平洋パートナーシップ協定」 関連記事



2023.5.23静岡新聞

社会実験へのご協力ありがとうございました！
ご清聴ありがとうございました！

雪の深いおまながまちと
港ひかえたおらがまち
二つは遠く離れていても
だけど架けよう心の橋を
だけど結ぼうみんな一つに…